



地域の概要及び課題

【資源】

- 大阪湾奥部は、埋め立て地の造成等が多く、自然の藻場・干潟等はほとんどない
- 人工海浜や海とのふれあい広場などが整備され、憩いの場として活用されているところもある（散歩、釣り、ドッグラン等）

【課題】

- 海と触れあう場や藻場・干潟の再生・創出が必要
- 府民や企業等による大阪湾の里海づくりへの参加や認識・理解醸成が必要

保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン



大阪湾奥部
大阪府大阪市/堺市



R5年度モデル事業における取組内容および成果

【堺泉北港南泊地】

里海づくり拠点形成・生物生息環境調査

- 大学連携による潮だまりや網袋設置による生物生息空間の創出・生物生息環境の調査



【成果】

ヤドカリ・カニなどの甲殻類やアサリなどの貝類の生き物の生息場としての機能が確認された。

【堺泉北港南泊地】

ワークショップ（将来像の検討）

- 形成した拠点における今後の連携や活用の検討



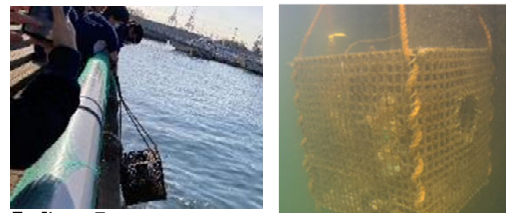
【成果】

大学や漁業者等との連携体制を構築し今後の活用に関する議論や拠点活用に関する将来像を作成した。

【大阪港天保山周辺】

護岸の仕掛け設置・生物調査

- 中高生・水族館と連携した仕掛け設置による生物生息空間の創出



【成果】

タケノコメバル、イシガニ、フジツボ、ホヤやウミウシなどが見られ、生物生息場としての機能が確認された。仕掛けの形状により定着する生物の傾向が異なることも考察された。

【大阪港天保山周辺】

生き物観察会・情報発信

- 設置した仕掛けの生物観察会
- 活動内容のパネル・動画の作成・展示



豊かな大阪湾をめざして
Let's make Osaka Bay rich

【成果】

観察会や水族館での展示により、大阪湾に豊かな生物が生息していることなどの理解促進につながった。

今後の課題および 取組方針

- 堺泉北港南泊地では、成果が見られた生き物の生息環境改善の取組を継続するとともに、企業所有護岸で囲われている場所で活動しているため、里海づくりの活性化に向けてアクセス性の改善を検討していく。
- 大阪港天保山周辺では、仕掛けを設置した護岸が海遊館から少し離れた場所にあるため、海遊館の来場者に対して天保山周辺護岸の水中の状況や得られた生物の展示等、より身近に感じられる展示手法を検討する。